

世界はひとつ

GIFU
INTERNATIONAL
CENTER

日本語版

(公財) 岐阜県国際交流センター (略称 GIC) 発行
国際交流・多文化共生情報誌

2015年 No. 134



©岐阜県清流の国産紙・マガチ #0193

国際交流イベント ハローギフ・ハローワールド2015を開催しました

年に1度の一大国際交流イベント「ハローギフ・ハローワールド2015」を、岐阜市柳ヶ瀬にて開催しました。世界の歌と踊り、民族衣装の着付け、各国スイーツの試食など、多くの県民の皆さんに、世界の文化体験や国際交流を楽しんでもらいました。

ステージパフォーマンス ・日本スペイン交流400周年記念ライブ・



日本スペイン交流 SP プロジェクト



岐阜スペイン文化センター

・フランス・アルザス州紹介・



岐阜日仏協会



民族衣装



アルザスワインが有名

詳しくは
P 4 を Check!

世界の文化体験ブース



数多くのブースが出店



ブラジルコーヒー



フィリピンのお菓子

県国際交流員 新任のご挨拶・母国紹介	P 2
多文化共生とは? 各国の皆さんにインタビュー! 後編	P 3
センターの事業報告	P 4 ~ P 5
・国際交流文化サロン「中東で何が起きているのか」	
・ハローギフ・ハローワールド2015	
・外国人住民向け防災啓発出前講座	
在住外国人の方への生活情報	P 6

岐阜県内で活躍する国際関係団体の紹介	P 7
・日中コミュニティ推進会	
JICA からのお知らせ	P 7
センターからのお知らせ	P 8
・研修・イベント告知	
・多言語防災ガイドのご紹介	

県国際交流員 新任のご挨拶・母国紹介



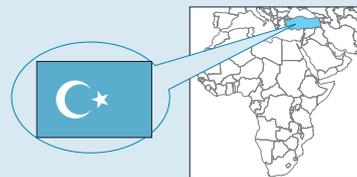
岐阜県の皆さん、はじめまして。私は2015年8月から岐阜県庁に勤務している新しい国際交流員（CIR）のセヴギ・チェヴィックです。トルコのイスタンブールから来ました。

イスタンブールで暮らし始めたのは大学に入学した時からで、生まれ育ちは、中央トルコの世界遺産カッパドキア近くのカイセリです。トルコの伝統的なソーセージ「スジューク」と「マンティ」という料理で有名な大きな町です。マンティは、ミンチした肉を小麦粉の生地で包み、鍋で煮込んでからにんにくの入ったヨーグルトの上にトマトペーストなどで作ったソースをかけて食べる料理です。大学は、ヨーロッパとアジアの境目にあるボスボラス海峡の素敵な景色に面するイスタンブールのボアジチ大学でした。ここで日本語を2年生から学び始めて今まで5年間が経ちます。日本語学習の2年目には、下関市立

大学で交換留学生として勉強しました。大学を卒業してから今年の来日までの間は、日本企業IHIインフラシステムで現地作業職員として勤めていました。そこではボスボラス海峡の2つの橋の補修建設プロジェクトに携わりました。今回CIRとして来日し、日本の方々と交流できることをとても幸せに思っています。トルコからのCIRは現在日本で私一人ですが、岐阜県の皆様にトルコという国と文化についてもっと知って頂けるように活躍しようと思います。よろしく願い致します！

トルコについて

公式名：トルコ共和国	通貨：トルコリラ
公用語：トルコ語	人口：77,695,904人
首都：アンカラ	GDP：1兆5080億ドル



トルコの大部分は中東におけるアナトリア、あるいは小アジアと呼ばれる地域に位置しています。ボスボラス海峡の西からの小さな部分はヨーロッパに位置しています。ヨーロッパ側では、ギリシャ、ブルガリアとの国境があり、アジア側ではグルジア、アルメニア、イラン、イラク、シリアとの国境があります。トルコの緯度は日本と似ているので同じように四季があります。半島でもあるので東から西、南から北まで様々な自然環境に富んでいます。アジアとヨーロッパの交差点とも言えるトルコは、昔から様々な文明と関わりがあり、文化にも富んでいる国です。古代からヒッタイト・フリュギア・リディア・東ローマ帝国など様々な文明が栄えた長い歴史を持っています。遊牧民族であったテュルク系民族はアナトリアに11世紀に来て、それからセルジューク朝とオスマン帝国が生まれました。オスマン帝国は第一次世界大戦で負けて滅び、独立戦争後に現在のトルコ共和国が誕生しました。

トルコでは主にトルコ語が話されていますが、クルド語など他の言語を話す少数民族もたくさんいます。また国民のほとんどはイスラム教のスニー派に属しています。この中には少数派も多数あり、同じ宗派の中でも宗教に対する考えと行動が様々です。スカーフをかぶり、お酒と豚肉を飲食しない、規律を守りお祈りなどを行っている人がいれば、自由な服装で、お酒を飲み、お祈りをしない人もたくさんいます。（ただし豚肉はトルコ国内でほとんど売られてないので、宗教的考えにかかわらず基本的に食べない。）

トルコ料理は世界でも有名であり、世界三大料理の一つとして知られています。トルコ料理には主にバルカン半島料理、中東と中央アジア料理、地中海料理、宮廷料理など様々な種類があります。特にケバブという焼肉料理がよく知られています。肉の種類として牛、羊、子羊、鶏、山羊などを使います。トルコ料理はソースや出汁類を使わずに野菜や肉といった材料をそのまま混ぜて作り上げるものが多いです。味付けには、トマトペースト、塩、香辛料を加えます。砂糖を入れる料理はほとんどありませんが、紅茶とデザートには砂糖を大量に使います。飲み物としては、トルココーヒーと「チャイ」と呼ばれる紅茶が一般的に飲まれています。一人当たりで飲む紅茶でトルコは世界トップとなっています。他に一般的に飲まれるのは、「アイラン」という、ヨーグルト、水、塩を混ぜて作るシンプルな飲み物です。お酒で有名なのは葡萄で作る「ラク」です。このお酒は普段水のように透明ですが、水で薄めるとカルピスのような色になります。トルコは朝食の種類も非常に多く、飲み物としては主にチャイがのまれ、主食であるパンと一緒にチーズ、オリーブ、トマト、キュウリ、ジャム、はちみつ、スジューク、卵などが食べられています。



Van市の名物となる朝食



カッパドキア



パムッカレ

トルコではサッカーの人气が高く、他にバレーボール、テニスなどのスポーツも人気です。伝統的なスポーツとしては「ヤールギュレシ」（油レスリング）が挙げられます。毎年トルコのヨーロッパ側に位置するエディリネという街で行われるヤールギュレシ大会は、650年以上の歴史を持ち、格闘技の大会としては世界最古です。このレスリングの特徴は選手が全身にオリーブオイルを浴びて行われることです。日本人にはトルコ相撲と呼ばれることもあります。

トルコは自然と歴史の豊かな国なので自然を楽しめる観光スポットや歴史遺産がたくさんあります。ユネスコの世界遺産は15箇所あり、世界遺産の暫定リストにも約60箇所載っています。中でも文化遺産と自然遺産の両方の価値を兼ね備える「複合遺産」として登録されているカッパドキアとパムッカレは特に有名です。歴史、文化、自然などに興味のある方は是非行ってみたい！

多文化共生とは？各国の皆さんにインタビュー！

岐阜県在住の外国人の皆さんが「多文化共生」をどのように考えているのか、引き続き生の声を聞いてみましょう！



- 名前：ラジブ・ラヘラ
- 国籍：イギリス
- 職名：外国語指導助手

自分にとって、「多文化共生」というのはどのようなものですか？

多文化共生というのは、様々な文化を理解し、受け入れることだと思います。たくさん文化を寄せ集めただけの社会は多文化共生とは違うと思いますし、多様な社会の魅力は他人への理解にあると考えています。

母国は、多文化社会だと思いますか？

多文化社会としか言えない国の出身ですが、そこに良いところもあれば、まだまだ課題が残っているところもあります。イギリスは本当に多様な国で、イギリス人はそれを誇りに思っています。その多様性によって、周りにある文化や、遠く離れた文化の理解が深まり、自分と違う人と交流し、新しい思想や考え方に触れ合うことができます。しかし、その一方で、お互いの文化への知識や理解が足りない場合は、未知への恐れや不安が敵意になり、社会において双方の文化に対するイメージが悪い方向に変わってしまうこともあります。

カルチャーショックを経験したことがありますか？

はい。自分はカルチャーショックになるタイプではないと思っていましたが、人の強さというよりは、適応性の問題だということに気がきました。カルチャーショックは気づかないうちに、少しずつ溜まっていき、思いがけないところでいきなり現れるものだと思います。私にとって、その瞬間は、日本の冬を初めて過ごした時のことです。都会の出身で、母国の冬は日本よりずっと短いため、本当に苦労しました。日本では田舎に住んでいるので、冬の時は、雪や、厳しい寒さ、人とのコミュニケーションの不足等で、色々大変でした。

自分の文化は、日本の文化とどう違いますか？

私はインド系のイギリス人で、二重の文化アイデンティティを持っているので、文化に対する考え方は幅広いです。例えば、イギリスの職場環境は日本と違うと感じるところもあれば（特に勤務時間等）、インドの家での風習は日本と似ていると感じるところもあります（インドの文化でも、家に入るときは靴を脱ぎます）。

コミュニティへの参加で困ったこと等がありますか？

田舎に住んでいるので、一緒に暮らし、一緒に働くコミュニティが非常に狭いです。私は日本語があまり得意ではない

ので、町の人々とコミュニケーションをとるには、少し努力が必要です。しかし、それこそがその人間関係を大切にすることができるとも繋がります。だから、たまには間違えて、例えば「おはようございます」の代わりに「ありがとうございます」と言ってしまうと、ある程度日本人の皆さんとの交流ができています。

人種や文化が理由で、他の人と違う扱いをされたことがありますか？

残念ながら、あります。日本に住んでいるのに、英語だけでコミュニケーションを期待されることがありますので、英語での質問に日本語で答えると、お互い少し戸惑うことがあります。しかし、これも相手と交流しようという思いやりの一つだと考えています。多くの日本人は基本的な英語が話せますが、それを使うきっかけや、英語圏のネイティブと話す機会が少ないので、日本人にとって英語圏の外国人と交流することが面白いのかもしれない。

日本は以前と比べて、より多文化的になってきていると思いますか？

はい、そう思います！今は、旅行に時間とお金を使う人が増えていますし、世界中に日本のポップカルチャーのブームが広がっているので、日本の魅力を知り、日本に引っ越す外国人が増えていると思います。それに、英会話やALT等、日本での生活を体験できる英語教育プログラムの増加によって、今後は日本においても新しい文化と触れ合う機会が増えるのではないかと思います。

外国人がコミュニティの一員だともっと感じられるように、どうすればいいと思いますか？

お互いの文化に対する疑念やステレオタイプを払いのけて、その不慣れな新しい文化に思い切って浸ってみることが一番の方法だと考えるようになりました。人間は人間です。誰かと交わす笑顔がコミュニケーションの始まりとなり、毎日の「おはようございます」にも繋がります。どの国においても、外国人がすぐに社会に溶け込むのは難しく、時間をかけても溶け込めないかもしれません。何せ、外国人なのです。でも自分の限界や、周りに何を期待されているかというのを十分理解するのが本当に大切だと思います。私は、近いうちに地方のお祭りで皆の前に立って太鼓を打ったりするつもりはありませんが、住んでいる町のお祭りを見に行くことなら、誘っていただいたことがあります。山の中の小さなコミュニティですし、私の大きなひげのある顔に慣れるまでは時間がかかるかと思いますが、祭りの写真を撮ったり、皆に笑顔で自己紹介をしたりすることで、少しでも慣れていただけたのではないかと思います。

多文化共生社会とは

県内の在住外国人を、地域社会を構成する「外国籍の県民」として認識し、「県民が互いの文化や考え方を尊重するとともに、安心して快適に暮らすことのできる地域社会」を指します。岐阜県内では在住外国人の定住化が進んでおり、多様な文化的背景を持った在住外国人が、地域社会で共に生活し、様々な分野に参画することにより、地域社会が活性化し、より豊かな魅力ある岐阜県がつくられることが期待されます。

・岐阜県ホームページより抜粋

国際交流文化サロン 「中東で何が起きているのか」 ～「イスラーム国」の台頭、イラン核問題、そして日本との関係～

今年初頭に起きた過激派組織「イスラーム国」による日本人人質事件により、中東で起きている紛争が日本人にとって無縁でないことが、改めて明らかになりました。また、国会でホルムズ海峡における集団的自衛権行使の可能性が議論されるなど、中東の湾岸地域の情勢が日本の安全保障問題に関わってくることも意識されたでしょう。

「イスラーム国」とは何なのか、何を目的として活動しているのか、また、現在中東で起きているイランとサウジアラビアの対立について、その現状と要因について知るため、クウェートやオマーンでの在住経験もあり、中東事情に精通した専門家である公益財団法人中東調査会研究員の村上拓哉氏を岐阜市のふれあい福寿会館にお招きし、『中東で何が起きているのか』と題した国際交流文化サロンを6月7日（日）に開催しました。

「イスラーム国」はイラク戦争以降にイラク国内でテロ活動を開始しました。イラク国内では一武装勢力に過ぎなかった「イスラーム国」の活動は、一時下火になったものの、2011年にチュニジアから始まった「アラブの春」をきっかけに国内が混乱したシリアに進出し、シリア国内で再び活動を活発化させ今に至ります。多くの過激派組織とは異なり、既存の政治体制を打倒するだけでなく、国家という枠組みそのものを否定する「イスラーム国」は、全世界のムスリム（イスラーム教徒）に「イスラーム国」の支配する地域への移住を呼びかけ、ここに住むことは義務であるとしています。

イランとサウジアラビアなど湾岸諸国との紛争では、これまで欧米諸国と対立していたイランが、核問題の解決を図ることで欧米との関係を改善させようという大きな転換点を迎えています。欧米と協力してイランに対抗していたサウジアラビアは、これによってイランとサウジアラビアとの間での関係が変化することを恐れているといえます。このほか、本セミナーでは、中東と日本との関係、日本は中東で活動する日本人をどのように守るべきかについても解説いただきました。

参加者の皆様からは、中東の国々や情勢に対する質問のほか、世界平和や人権について幅広い質問が講師に寄せられました。日本から遠く離れた地ですが、そこで起きている問題は日本にも大きく、密接に関わっており、多くの方々が中東地域の動向を注視し、深い関心を寄せていることがわかりました。

当センターでは、県民の皆様の国際相互理解の促進と、異文化交流を図ることを目的として、外国の歴史、文化等を紹介する国際交流文化サロンを定期的に開催しています。今後も海外の様々な国や地域を紹介してまいりますので、多くの皆様の参加をお待ちしております。



講師の村上拓哉氏

ハローギフ・ハローワールド2015

岐阜県一大国際交流イベント「ハローギフ・ハローワールド2015」を、6月21日（日）、岐阜市柳ヶ瀬高島屋前のわくわく広場とシネックスホールで開催しました。当センターと岐阜県国際交流団体協議会が毎年主催し、今年で27回目を迎え、多くの家族連れや在住外国人など、約3千人にご来場いただきました。今回のイベントを通じて、日本人・在住外国人の交流促進を行うとともに、楽しみながら世界各国の文化に親しみ、国際理解を深めた1日となりました。

ステージパフォーマンス

わくわく広場のステージでは、日本・スペイン交流400周年記念ライブとし、日本スペイン交流SPプロジェクトや岐阜スペイン文化センターのメンバーによるスパニッシュダンス・フラメンコをはじめ、オーストラリアの先住民アボリジニの金管楽器であるディジュリドゥの演奏、ペルー・インドネシアの民族舞踊、箏演奏や琉球国祭り太鼓等が披露されました。また、岐阜日仏協会によるフランス・アルザス州（アルザス州にあるオーラン県は、県と経済・観光分野での交流を進めています）の紹介もあり、多くの来場者が足を止め、各ステージを楽しんでいました。



世界の文化体験ブース

シネックスホールでは、アメリカやヨーロッパ、アジアなど28の県内国際交流団体がブースを設け、団体活動や交流のある国の文化紹介、世界のお菓子やジュース、ブラジル珈琲の試飲試食、民芸品やアクセサリーの販売などを行い、常に賑わいをみせました。フランス・アルザス州のスイーツやワインの販売、サリーやチマチョゴリなどの民族衣装着付け体験・写真撮影、外国語での名刺づくりや英字新聞で折り紙を楽しむブースも大変好評でした。

当センターのブースでは、3人の国際交流員（ブラジル・イギリス・中国）が県民の皆さんと交流しました。木の葉や花の形にくりぬいた紙にメッセージを記入してもらい、一つの木を完成させました。また、多言語でのおみくじも作成し、多くの方と会話を楽しみました。



センターの平成27年度重点事業「外国人向け防災啓発・減災事業」 「外国人住民向け防災啓発出前講座」を美濃加茂市、大垣市で開催しました

当センターでは今年度、県と連携して、外国人向け防災啓発・減災事業を重点事業として取り組んでいます。その一環で当センターは、美濃加茂市にある岐阜アライアンス教会、キリスト教会恵と命において平成27年8月2日（日）、大垣市のカトリック大垣教会で8月23日（日）及び9月27日（日）に、外国人住民を対象とした「防災啓発出前講座」を実施しました。

東海地方は150年以上大きな地震が発生しておらず、この地域で巨大地震がいつ発生してもおかしくないと言われ、今後30年以内に、南海トラフ巨大地震が起きる可能性は、70%と予測されています。県内で外国人住民の定住化が進む中、大地震等の大規模災害が発生した場合、言葉の違い等による情報不足や文化・慣習の違い、災害経験の少なさから、外国人住民が災害弱者となる可能性が考えられます。自然災害が多く発生する日本では、外国人住民も災害に関する知識を持ち、自分の身は自分で守る、平時から災害に備えるという「自助力」の向上が求められています。

本講座では県防災課職員が講師を務め、自然災害の中でも特に地震、風水害を中心に、南海トラフ巨大地震の被害想定や地震と揺れの状況、災害が発生した時に自分の身を守るためにどんな行動を取ったらよいか、災害のための備えなどを写真やイラスト、動画、クイズでわかりやすく説明しました。また、災害により被害が出るおそれがある地域の住民に市町村長が発令する「避難準備情報」「避難勧告」「避難指示」の違いについても、説明しました。

参加いただいた外国人住民の皆様は、「緊急地震速報」の音を確認し、家具や家電の固定が行われていない居間や寝室の動画を見て、地震対策の大切さを理解していました。参加者からは、「災害時の避難情報を多言語で放送してほしい」という希望や、「避難所はどこにあるのか」「非常食はどこで買うことができるか」等の質問がありました。県内外で大規模災害が発生した場合、多言語支援センターで災害情報を翻訳したり、避難所を巡回して通訳をしたりして外国人被災者の支援を行う「災害時語学ボランティア」の募集も併せて行いました。

※この事業は、一般財団法人自治体国際化協会の助成事業により実施されています。



美濃加茂市の教会で開催した講座の様子



大垣市の教会で開催した講座の様子

岐阜県外国人住民数 平成27年6月末現在

	国	人数	割合
1	中国	12,648	29.2%
2	フィリピン	9,782	22.6%
3	ブラジル	8,923	20.6%
4	韓国・朝鮮	4,612	10.7%
5	ベトナム	2,537	5.9%
6	ペルー	782	1.8%
7	その他	4,000	9.2%
計		43,284	

調査：岐阜県環境生活政策課

GIC 賛助会員 募集中!

センターの趣旨に賛同し、会費という形で活動を支援くださる「賛助会員」を募集しています。

◎**会員の特典**

- ①有料講座（語学講座、料理教室等）の優先参加や参加費割引
- ②国際交流イベント等のお知らせ（メールのご案内）
- ③国際交流・多文化共生情報誌「世界はひとつ」を郵送でお届け
- ④賛助会員協賛企業・店舗等で各種サービス

◎**年会費**

個人会員…3,000円／1口 団体会員…5,000円／1口

※有効期間 毎年入会日～当該年度の3月31日
※年度途中での入会の場合、初年度のみ、会費は月割りとなります。

センターHPからお申し込みができます。

HP内の  をクリック!

GIC メールングリスト 情報交換しませんか?

メールングリストとは、特定のメールアドレスにメールをだすと、登録されているメンバー全員に同じ内容のメールが送信される仕組みのことです。メンバーのリスト及びメールアドレスは公開されません。個人・団体を問わずご参加いただけます。

◎**発信する情報について**

国際交流・協力、多文化共生に関するものに限りです。
※センターからも不定期で国際交流・多文化共生情報を配信中
※営利目的のメールの送信はお断りしております。

センターHPより登録をお待ちしております!

事業・イベント案内などにご活用ください

HP内の  をクリック!

国際交流・多文化共生情報を受け取りたい個人の方も歓迎

国旗の貸出

非営利活動団体が国際交流等を目的とした事業に使用する場合に限り、国旗や卓上旗の貸出を無料で行っていきます。貸出は、原則、貸出・返却時に当センターにご来所いただける場合のみとなりますので、ご了承ください。ご希望の方はお気軽にセンターまでお問合せください。

GIC 国旗

広告主を募集しています!

センターのホームページ・情報誌「世界はひとつ」（日本語、英語、ポルトガル語、中国語、タガログ語）に掲載する広告を募集しています。詳しくはセンターまでお問い合わせください。

ご自宅で英語を教えてみませんか?

COCO塾ジュニア ホームインストラクター募集中!

ホームインストラクターは、ご自宅を教室にして子どもに英語を教え、収入を得ながら子どもの未来を育むことができます、やりがいのある仕事です。

☆ Special Offer ☆
この広告をご覧になった方限定!

ネイティブ講師による
英会話ミニレッスンをプレゼント!

★お電話でご予約の際、この広告をご覧になったことをお伝えください★



COCO塾
Jr.
NICHU YORK ACADEMY

説明会随時受付中! お申し込み・お問合せはお気軽に♪
COCO塾インフォメーションセンター岐阜
☎058-266-1923 10:00～18:00(日祝休)
上記時間外は☎0120-615-212 (24時間受付・年中無休)



在住外国人の方への生活情報

マイナンバー制度が始まります！！！！

マイナンバーとは？

平成27年10月から住民票を有する全ての方に通知される、一人ひとり異なる12桁の番号をマイナンバーといいます。「マイナンバー制度」とは通称で、正式には「社会保障・税番号制度」といいます。個人が特定されないように、住所地や生年月日などとの関係のない番号が割り当てられます。

マイナンバーは中長期在留者や特別永住者などの外国人の方にも通知されます。

平成28年1月からマイナンバーを利用します。下の表にあるとおり、社会保障、税、災害対策の中でも、法律や自治体の条例で定められた行政手続きでしか使用することはできません。

国民の皆さんは、年金・雇用保険・医療保険の手続き、生活保護・児童手当、その他福祉の給付、確定申告などの税の手続きなどで、申請書等にマイナンバーの記載を求められることとなります。

メリットは？

社会保障・税に係る行政手続きにおける添付書類の削減やマイナポータルのお知らせサービス等による国民の利便性の向上に加え、行政を効率化して人員や財源を国民サービスに振り向けられること、所得のより正確な捕捉によりきめ細やかな新しい社会保障制度が設計できる等の利点があります。

問合せ先

不明な点があれば、下記HPを確認するかコールセンターにお問合せください。住んでいる市町村の役所にも聞くことができます。

ホームページ（内閣官房のHP）

<http://www.cas.go.jp/jp/seisaku/bangoseido/index.html>

コールセンター

0570-20-0291（英語・中国語・韓国語・スペイン語・ポルトガル語）

【2015年10月1日から2016年3月31日まで】

月曜日～金曜日 9：30～20：00 土日祝日 9：30～17：30

（年末年始はつながりません）※ナビダイヤルは通話料がかかります

平成28年1月以降、マイナンバーは、こんな場面で必要となります。

社会保障関係の手続き

年金の資格取得や確認、給付
雇用保険の資格取得や確認、給付
ハローワークの事務
医療保険の給付の請求
福祉分野の給付、生活保護
など

税務関係の手続き

税務署に提出する確定申告書、届出書、法定調書などに記載
都道府県・市町村に提出する申告書、給与支払報告書などに記載
など

災害対策

防災・災害対策に関する事務
被災者生活再建支援金の給付
被災者台帳の作成事務
など

マイナンバー制度実施の流れ

平成27年度10月以降	住民票の住所に通知 住民票を有する方（住民票がある外国人を含む）に、平成27年10月以降、12桁のマイナンバー（個人番号）が通知されます。
平成28年1月	マイナンバーの利用開始 税の手続きや年金、医療保険、雇用保険などの社会保障の手続きで、マイナンバーの利用が開始されます。申請者への個人番号カード交付も始まります。
平成29年1月	個人ごとのポータルサイト（マイナポータル）の運用開始 マイナンバーを含む自分の情報をいつ、誰が、なぜ提供したのか確認できます。行政機関からのお知らせも受け取れます。
平成29年7月	地方公共団体等も含めた情報連携を開始 情報連携により事務が確実かつスムーズになり、国民の負担が軽減。暮らしがもっと便利になっていきます。

日中コミュニティ推進会

日中コミュニティ推進会とは？

日中両国市民間のコミュニティを推進し、草の根的な友好交流に貢献することを目的に、前身団体である「日中青年交流会」の活動を引き継ぎ、両国民の触れ合いのきっかけとなるような事業やイベント等を行っています。活動を通じ、両国民が理解・尊重しあい、互いの信頼を築くことで両国の友好親善に寄与します。

推進会の活動紹介

・コミュニケーション

多文化共生の意識啓発、コミュニケーション力や日本での生活の自立支援を目的に、日本語教室や生活相談を定期的に開催しています。

・社会活動

地域環境へのボランティア活動として花火大会の翌日の長良川ゴミ拾いや、会報の刊行(年3、4回)・無料配布を行い、多文化情報の共有を行っています。

・日中交流

日中交流のお手伝いや、地域文化振興・多文化共生社会の創出のため、日中友好に関する行政連携やボランティア通訳を行っています。

・異文化体験支援

両国の若者が異文化を知るきっかけとして、実地体験のプログラムを実施し、異文化理解を深める事業を展開しています。

- ・設立 平成25年
- ・代表 松村 凱(まつむら かん)
- ・住所 岐阜市五反田町13番地
(有)3MH内)
- ・TEL 058-253-4433
- ・E-mail nichukomi@nichukomi.com
- ・HP <http://nichukomi.com/>



長良川清掃活動

PICK UP !

青年育成事業—新日中見聞録
「旅に出よう！それを語ろう！」

センター助成事業

日中友好の将来を担う両国の青年を互いの国へ派遣し、家庭・企業・学校・環境施設訪問等を行い、観光やテレビの情報では分からない現地の「素のままの生活」を体験する機会を提供します。両国の友好を深めるとともに、冷静に日中関係が理解できる人材を育成します。

読者の皆さんへメッセージ

私たちは、一般の方をはじめ法人の方にもご支援やご参加を頂き、活動を始めて2年が経ちます。

昨今、日中関係、日中両国における人々の相互感情は望ましくない状態が続いています。しかし、この現状に悲観することはないと思います。なぜならば、「新日中見聞録」(一旅に出よう、それを語ろう)参加者のレポートで分かるように、お互い知りさえすれば、ふれ合いさえすれば、憎しみも疑念もおのずとなくなる、ということが言える、いや、確信できるものだと思います。この確たる信念は、事業に参加された若い大学生にとどまらず、だれもが持てるものではないかと思えます。

この確信をモットーに、また、日中両国間の人と人の相互感情は再び暖かく余韻のあるものに戻ることに向けて、当会は、今後も地道に活動をしていく所存でございますので、ぜひご理解とご支援、さらには活動へのご参加を、ぜひお願い申し上げます。宜しくお願い致します。



JICA からのお知らせ

青年海外協力隊50周年記念 JICA ボランティア写真展

～世界に笑顔を広げるシゴト～

1965年、青年海外協力隊の初代隊員がラオスに派遣されてから50年が経ちました。これまでおよそ4万人が88ヶ国で活動し、途上国の抱える問題に取り組んできました。岐阜県からもこれまでに787名が参加し、現在も50名が活動中です。(2015年7月31日時点)

そんな青年海外協力隊50年の歩みと、岐阜県出身のJICAボランティアの思い出の詰まった活動写真を集めた写真展を岐阜県各地で開催しております。これまでに県内6ヶ所で開催し、今後も開催地を増やしていきたいと思っておりますので、詳しくはHP(<http://www.gic.or.jp/jicagifu/>)をご覧ください。



【これまでの開催地】

岐阜市、羽島市、中津川市、高山市

JICA ボランティアとは…

青年海外協力隊をはじめ、応募いただく年齢や活動地域により、4種類のボランティア事業を実施しています。



～JICA ボランティアや開発教育・国際理解教育、その他国際協力に関して、お気軽にお問合せ下さい～
JICA 岐阜県デスク 岐阜県国際協力推進員 青木道裕

TEL : 058-263-8069 E-mail : jicadpd-desk-gifuken@jica.go.jp

岐阜県国際交流センターからのお知らせ

●「災害時語学ボランティア研修」「外国人防災体験ワークショップ」参加者募集＜大垣市開催＞

当センターでは、災害時に外国人住民を支援する「多言語支援センター」の運営を担う人材を育成するため、大垣市、(公財)大垣国際交流協会及び岐阜経済大学と連携し、「災害時語学ボランティア研修」・「外国人防災体験ワークショップ」を開催します。

災害時語学ボランティア研修では、災害時に外国人住民に対して、通訳や翻訳、困り事の聞き取りなどサポートができるよう、訓練します。行政、外国人支援団体、自治会・町内会、地域住民の皆様、災害時の外国人支援に関心のある方、日本語で日常会話ができる外国人住民の皆様、ぜひご参加ください。

外国人防災体験ワークショップは、外国人住民を対象に、非常食の試食や地域を歩いて災害に関係する設備や場所を確認する「防災まちあるき」を行います。友達や家族で防災について考える機会として、ぜひご参加ください。

	災害時語学ボランティア研修	外国人防災体験ワークショップ
日時	平成27年11月29日(日)	
	10:00~16:30	12:00~16:00
場所	岐阜経済大学(大垣市北方町5-50)	
対象	行政、地域住民の方、災害時の外国人支援に関心のある方 30名	外国人住民 30名
内容	災害多言語支援センター設置訓練での外国人支援シミュレーション	非常食体験、防災まちあるき

※岐阜市での研修は、平成28年1月17日(日)にみんなの森 ぎふメディアコスモスで開催します。

詳細が決まり次第、当センターホームページ等で参加者募集を行います。

参加申込 当センターまで、電話、メールまたはFAXでお申込ください。

※この事業は、一般財団法人自治体国際化協会の助成事業により実施されています。

●国際交流文化サロン「ブラジル音楽 ～狂熱な夢、鮮明な光～」

今回は、音楽を通してブラジルの文化の魅力を紹介します。県内で活動するブラジル音楽のバンドと一流尺八演奏者によるミニ演奏会を行います。

日時 平成27年11月25日(水) 18:30~20:00
 場所 清流文化プラザ(岐阜市学園町3-42)
 費用 無料
 定員 30名(申込先着順)
 講師 森下アンダーソン実砂雄(国際交流員)
 ゲスト GIRASSOL(バンド)、斗光 國彦(尺八)
 申込 当センターまで電話、メールまたはFAXでお申し込みください。

ボランティアを募集中!
 災害時にあなたの力が必要です。
 ご協力をお願いします。



上記は予定であり、内容及び時間等の変更の可能性があります。詳しくはセンターのHPをご覧ください。

外国人住民向け「多言語防災ガイド」を作成しました

ー「日本語・英語・中国語版」と「日本語・ポルトガル語・タガログ語版」の2種類ー

当センターでは、外国人の災害時の被害が最小となるよう、災害発生時に取るべき行動や避難するときの注意点、災害情報の収集方法などについて説明した「多言語防災ガイド」を作成しました。

災害が起きた時に困らないように、「避難カード」のスペースに緊急連絡先や自分の情報を記入し、日頃から持ち歩いて、災害に備えてください。

外国人支援に関わる皆様、日本語教室や外国人住民向けの防災訓練や講座等で、ぜひご利用ください。

多言語防災ガイドの内容

- ・地震が起きた時に取るべき行動
- ・避難するときの注意点
- ・避難するときに持って行く物
- ・緊急地震速報
- ・大雨・台風に関する注意点
- ・安否確認(災害用伝言板)
- ・情報源(インターネット、ラジオ)
- ・最寄りの避難所、緊急連絡先など自分の情報を記入するスペース

言語

「日本語・英語・中国語版」、「日本語・ポルトガル語・タガログ語版」

配布先

- ・市町村、市町国際交流協会、国際交流団体、外国人コミュニティ、日本語教室、当センター主催研修等で配布。
- ・「多言語防災ガイド」が必要な方は、下記問い合わせ先までご連絡ください(在庫には限りがあります)。
- ・当センターのホームページよりダウンロードできます。
<http://www.gic.or.jp/foreigner/disasterguide/>

問合せ先：当センターまで

サイズ

- ・手帳や財布などに入れていつも持ち歩くことができるポケットサイズ(折りたたんだサイズ：縦11cm×横7cm)。
- ・長期間の携帯に耐えられるよう、水に強く破れにくい紙を使用。



※本冊子は、一般財団法人自治体国際化協会の助成事業により作成しております。



いちき皮膚科

- ・診療時間
 月・火・木・金・土 : 9:00~12:00
 月・火・木・金 : 15:30~18:30
- ・休診日
 土曜午後、水曜、日曜、祝日

〒502-0913
 岐阜市東島3-9-13
 ☎ 058-231-1237



発行

公益財団法人岐阜県国際交流センター (略称 GIC)

〒500-8875 岐阜市柳ヶ瀬通1-12 岐阜中ビル2階

電話 058-214-7700 FAX 058-263-8067

トリオフォン 058-263-8066(電話による行政通訳サービス)

E-mail gic@gic.or.jp URL <http://www.gic.or.jp>

開館案内 開館 日~金曜日 9:00~18:00 休館 土曜日、祝日、年末年始

対応可能言語 英語、ポルトガル語、中国語、タガログ語



GIC 検索

